

- ・生年月日 昭和10年8月20日
- ・出生地 北海道大学医学部
昭和39年卒 第三内科
- ・好きな言葉 明哲保身（詩経 仲山甫）

●父の背中を見て、医師に

藤井：今回のゲストは赤倉昌巳副会長です。北大の第三内科のご出身ですね。入局されたきっかけは。

赤倉：はい、三内です。うーん、きっかけは強いて言えば、経済的理由かも知れません。

藤井：早くにお父様をなくされたと、うかがっておりますが、お父様はどんな方でしたか？

赤倉：父は気骨のある開業医でした。貧しい患者さんからは診療費を受け取らないこともたびたびで、当然ながら診療所の経営も苦しい。昭和37年、私の学生時代に父はかなりの借金を残して脳卒中で急逝。52歳でした。出身は北大第一内科で、道医報に永年連載している小竹英夫先生と同期同門で、先生にお会いすると父のように思われてなりません。

藤井：お父様は軍医の経験もおありとか？

赤倉：そうです。軍医としてアッツ島そしてキスカ島にもいき、日本軍が霧の中の撤退（敗戦後「幻の撤収」と呼ばれた）した部隊の一員でした。

その後、父は昭和20年春に除隊になり千島より無事生還しました。地方での勤務を経て、昭和24年に父は砂川で開業。私は砂川中学から砂川北高に進学し、高校1年生のときに秋野豊明前札幌医大学長とクラスメートでした。

藤井：その12年後に国民皆保険制度が創設されたわけですね。患者さんにとって、良い時代になったといえるのですか？

赤倉：患者さんばかりでなく、開業医も今まで未払いになっていた医療費が保険で支払われるようになったので、かなり楽になったと思います。皆保険制度ができて、その翌年に父が亡くなったわけで誠に残念でした。

私が、開業したのは昭和45年で、その翌年には保険医総辞退がありました。その頃から昭和50年頃にかけて診療報酬改

聞き手／ 常任理事 藤井美穂

定で10数%も上がったこともあり、今思えば良き時代だったのかもしれませんがね。

●趣味は豊か。

藤井：読書がお好きとか？

赤倉：とくに歴史物が好きですね。長子は考古学や歴史に興味を持つ、という説があります。生まれてすぐは非常に可愛がられ、しかも両親を独り占めできますが、次の兄弟が生れると、親の愛情が生れた子に奪われると思ひ込み、昔は良かったと考えるのでしょうかね。私も、5人兄弟の長男だからかなあ（笑い）。

もう、20年以上前になりますが、『文明が衰亡するとき』（高坂正堯著、新潮選書）を読んで感銘を受けました。国の衰亡論は、不思議に人を惹きつけるものがあります。巨大ローマ帝国の衰亡、通商国家ヴェネツィアの挫折、そして現代アメリカの苦悩を具に分析し、通商国家日本の運命を示唆した本ですが、20年経った今でも決して古くなく、くり返し読んでも、胸がわくわくします。

藤井：余暇はどのように過ごされますか？

赤倉：スポーツ観戦、映画・音楽鑑賞と食べることでしょかね。

映画はもっぱらDVDで見えています。特に、孫たちと一緒に映画を楽しむことは、まさに至福の時です。アドベンチャー物が好きで、最近では『ロードオブザリング』が面白かった。音楽は何でも聴きます。クラシックはもとよりジャズでも、イージーリスリングでも良い音楽、楽しい音楽は何でも好きです。

食べるのが好きなのは、学生時代からですが、今は家内のつくった手料理が一番良いですね。口に合っているし、最近では恐ろしい食品添加物が多量に使用されており、家庭料理は安全度も高い（笑い）。

藤井：ごひいきの球団は阪神とか？

赤倉：北大第三内科出身者には、伝統的にタイガースのファンが多いようですが、私は中学2年生の時、友人に虎キチがいて感化され、それ以来ずーっと続いております。

藤井：医師になっていなければ、どんな職業を選ばれていましたか？



赤倉：正直なところ、父の職業の関係で、他の職業を選択する余地はありませんでした。強いていえば、趣味を生かしたものの、例えば映画や音楽評論家などは楽しい職業だな、と思ったこともあります。

高校時代に、『パリのアメリカ人』というミュージカル映画の試写会が松竹座（現・ススキノ第3グリーンビル）であり、そのときステージに登場したのが今は亡き淀川長治さんで、その解説を聞いて感動したものです。

しかし、「一芸は道に通ずる」という諺がありますが、これは天才の極意であって、われわれ凡人は、幅広く知識を求めていく必要がありますね。それでないと、現代の情報化社会にはついていけないと思います。一般的に言って、その分、誰でも趣味が豊かになっていると思います。女性でもマラソンやサッカーをする時代ですから（笑い）。

●日医・唐澤会長のリーダーシップに感銘

藤井：好きな言葉を教えてください。

赤倉：「明哲保身」。明哲は才能がすぐれ、物事の道理に通じている人は身を誤らない、という意味です。近ごろは、「要領が良い人」という意味に誤用されており、使うのを差し控えておりました。ところが、唐澤先生が日医会長に当選されて初めての代議員会で、2年間沈黙を決め込んできたことを批判したある代議員の質問に対し、堂々と、しかも毅然とした態度で答弁をされました。これこそ「明哲保身」の本意であると感服し、この言葉が改めて好きになりました。

藤井：医師会活動に参加されたきっかけは？

赤倉：昭和40年に飯塚会長が道医の医政部長になられた時、ブレンとして医政研究委員会小委員会をスタートされました。その頃、私は札幌医の医政委員会の委員でしたので、小委員会の委員として参加させていただくことになりました。その4年後に札幌医理事に就任し8年間勤め、引き続き道医で9年間、医師会役員を続けさせていただいております。

振り返って見ると、初めて小委員会に出席した際に、当時の厚生省が発表した「中間施設（案）」（現在の老健施設）について飯塚先生より検討するようにと宿題をいただいて、ちょうど今夏のように暑い最中、膨大な資料を読んでまとめたことが、懐かしい思い出となっております。本当に貴重な経験をさせていただきました。

インタビューを終えて

好奇心豊かな人

常任理事 藤井 美穂

赤倉先生は趣味も広く、しかも好奇心の豊かな人であります。また、プレゼンテーションもほとんどご自分で作成されていると、お聞きしました。

この情報社会を生き抜く術（すべ）をお持ちの方であると思います。